

令和4年度 自己評価・施設関係者評価報告書

北見福社会が運営する認定こども園（夕陽ヶ丘・光西・みなみ）は、幼保連携型認定こども園へ移行して8年目を迎えました。新支援制度や保育料無償化などの制度充実とともに複雑化も進んでいます。

こうした状況下で、法人の基本理念や教育・保育目標等をはじめとする施設運営について自己点検・自己評価を行いました。その後、各認定こども園に設置した施設関係者評価委員会に諮り、保護者や地域代表者の皆様からの施設運営等に対する幅広いご意見なども含め「報告書」として公表いたします。

評価内容や関係者から頂いたご意見等は日常の教育・保育に活かすとともに、さらに利用者や地域の皆様から「愛され、信頼される認定こども園」を目指して、役・職員一同努力してまいります。

＜令和5年6月 社会福祉法人 北見福社会＞

《北見福社会の基本理念》

- ・ 児童憲章に則り、心身の発達を助長し、望ましい人間関係の育成を目指します。
- ・ 子どもの人権や主体性を尊重し、乳幼児の最善の利益が守られるよう、こども園と保護者や地域の方々との強い連携のもとに児童福祉の増進を図ります。
- ・ 社会福祉法人としてあるべき姿を追求し、地域に必要とされる法人を目指します。

1. 自己評価・施設関係者評価の目的について

- 自己評価は、各こども園が自らの教育・保育活動やその他の園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等を自ら点検・評価することにより、こども園として組織的・継続的な改善を図ることを目的として、全職員により毎年実施しています。
- 施設関係者評価は、各こども園の自己点検・自己評価結果をもとに、関係者による評価委員会を開催し、保護者や地域住民等から意見を得ることとしています。この関係者評価は、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、利用者や地域の皆様方にも施設運営の現状と課題を共有してもらうことで、こども園・家庭・地域等の連携協力によるこども園運営を目指しています。

2. 評価項目と着眼点について

評価項目（評価の着眼点）	
①理念等	社会福祉法人としての「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。
②経営状況	法人の経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。
③指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。 ○毎月、各担任を中心に「月ごとの指導計画」を作成しているか。 ○年度末に、各担任を中心に反省・検討を行い、次年度の「全体指導計画」作成に活かしているか。 ○それらの指導計画をその後の教育・保育に活かしているか。
④人権尊重	子ども一人ひとりに寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。 ○子どもの気持ちを汲み取って理解したり、仲立ちになってあげたりする配慮ができているか。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。 ○子どもへの体罰や虐待、乱暴な言葉遣いが無いように気を付けているか。 ○子どもの気持ちをしっかり聞き入れて対応しているか。

評価項目（評価の着眼点）	
⑤園行事	<p>指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。</p> <p>○全体指導計画にある“各行事のねらい”（入園式・運動会・発表会・卒園式など）をその都度確認しながら、ねらいの達成に向けて努力しているか。</p>
⑥発達援助	<p>子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている。</p> <p>○子どもの家庭状況や個性を含め、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、発達援助を進めているか。</p>
	<p>子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。</p> <p>○子ども一人ひとりの言葉や表情・行動から、その子の気持ちを汲みとり、丁寧に発達援助を進めているか。</p>
	<p>基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。</p> <p>○家庭によって子どもの生活習慣には違いがあり、保護者の考え方もそれぞれである。生活習慣の確立には、保護者と常に連絡を取り合いながら、お互いに協力し合い対応できているか。</p>
⑦教育・保育内容	<p>年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。</p> <p>○子どもの発達段階に応じて、色々な遊びを工夫して提示し、興味を持たせるように努力しているか。</p>
	<p>身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。</p> <p>○園庭活動やお散歩時等における、四季折々の自然に興味を持たせる工夫（言葉かけや遊び）があるか。また、植物や虫、野菜等、一緒に育てたり制作活動の素材として活用したりする工夫があるか。</p>
	<p>身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。</p> <p>○発達段階に応じた様々な遊び（縄跳びや鉄棒、プール等）に加え、素足生活を推進し、丈夫な体の育成に努力しているか。</p>
	<p>様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。</p> <p>○自然物をはじめ、紙・粘土・綿・紙コップ・割りばし・ペットボトルなど、様々な素材を活用し、自由な表現を楽しめるよう工夫、配慮しているか。</p>
⑧保育環境	<p>保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。</p> <p>○室内では、棚の角や段差、画鋲や釘、床や木材物のささくれ等の危険個所の把握、ハサミや教具等の整理整頓がなされているか。屋外では、建築物や遊具の破損、樹木や雑草等様々な危険物を園長・副園長に報告したり、排除・修理するように努めているか。</p>
	<p>保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。</p> <p>○教育・保育環境の衛生を保つために、物品の消毒・洗浄やトイレを含む各部屋の清掃・消毒作業等を実施し、子どもを感染症等から守る配慮をしているか。</p>
⑨給食・食育等	<p>楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。</p> <p>○発達段階や個人差、アレルギー等に応じて、食事のスピードや食べ方に違いがあるため、無理やり食べさせることなく、楽しみながら食事ができるよう、その子に合った食事介助が行えているか。</p>
	<p>給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。</p> <p>○毎日の給食の食材やメニューに関心が持てるような配慮をしているか。また、畑などで自分達が育てた収穫物を調理したり食べたりすることによって、食への関心を高めるよう努力しているか。</p>
	<p>各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。</p> <p>○こども園の様々な行事に合わせたメニューを提供することによって、食への関心を高めるよう努力しているか。</p>

評価項目（評価の着眼点）	
⑩障がい保育	<p>保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。</p> <p>○支援を必要とする子（気になる子）に対する理解を深めるため、必要により、市の関係各課や児童相談所、病院等と連携を図り、指導・助言を受けられるよう配慮をしているか。</p>
	<p>個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。</p> <p>○支援を必要とする子の割合は年々増加している。保育教諭の専門研修を通し、その理解を深めるとともに、指導方法を共有して、教育・保育を実践しているか。</p>
⑪健康と安全	<p>避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。</p>
	<p>子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。</p> <p>○子どもは、自分から「体調が悪い」等の表現ができないことが多いため、保護者等から健康状態を聞き取りの上、子どもの体調変化にいち早く気づき、適切な対処ができるよう常に心掛けているか。</p>
	<p>食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。</p> <p>○園のマニュアルに従い、特に午睡や食事中の事故防止にむけ適切に介助・観察をしているか。</p>
⑫保護者支援	<p>朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。</p> <p>○送迎時の面談のほか、連絡帳や電話等を活用して、家での様子やこども園での様子を伝え合うように努力しているか。また、掲示板等により、こども園での様子を伝えているか。</p>
	<p>参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。</p> <p>○参観日やクラス懇談会などで資料等も提示し、こども園の教育・保育について、保護者と共通理解を得よう努力しているか。</p>
⑬地域連携	<p>地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保に努めている。</p> <p>○小学校との引き継ぎ、中学校の職場体験等による園訪問等のほか、近隣の小・中学校との交流や、高齢者施設への訪問等、異世代間の交流機会を確保しているか。</p>
	<p>必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。</p> <p>○支援を必要とする子の対応を含め、市の関係各課や関係する小学校等との連携を図っているか。</p>